



全卸連プレゼンツ JPBA☆SSS Cup 2021

11月20・21日 / 東京ポートボウル

水野耕佑が一気の両目開く 姫路麗は無双状態のV28

優勝の姫路と水野



『全卸連プレゼンツJPBA☆SSS Cup2021』が、11月20、21の両日、東京ポートボウルで行われ、男子は今年の新人戦で初タイトルを挙げた水野耕佑(56期・アイキョーボウル)が、レギュラーツアーでもタイトルを奪取した。一方女子は、姫路麗(33期・フタバボウル)が千葉オープン、APAプレゼンツK&Qに続く3連勝で昨年に続く連覇を達成と、無双状態だ。(主催:全卸連/(公社)日本プロボウリング協会)

▶今年予選通過は初めてだった桑藤「この勢いで残り2試合も頑張りたい」



男子
予選6G、準決勝6Gの12Gトータル上位6名を決勝に選出した。予選からトップを快走の山本勲が余裕の1位通過、2年前の覇者・斉藤祐哉が2位、今年の新人戦を制した水野耕佑が3位で通過したほか、小原照之が4位、工藤貴志が5位、川添奨太が6位で進出した。

シュートアウト2ndマッチで254を叩いて勝ち抜けた水野が、トップシードの山本への挑戦権を手にした。

優勝決定戦でも水野が快調



▶周りを見れる余裕が出てきたとデビュー5年目の成長を実感する水野



▶逆転をかけた10フレスタートライクならず頭を抱える山本「調子自体は悪くないけど...勝ち方を教えてほしい」

にフィフススタートを切ると、「左右どちらのレーンもいい感じではなかった」と不安のスタートの山本だったが、2フレからフォースで食い下がる。6フレ水野が⑩タップに対し、山本は⑦タップ。水野が1マークリードのまま10フレ勝負へ。

先投げの水野は「相手は百戦錬磨の勲さん、絶対に持ってこなければと思ってた。自分ではいいショットだったけど...」その1投目は⑩タップ。しかし「唯一の失投だった」と振り返った山本の投球は、薄めに入って③⑦⑨を残すスプリットで万事休す。水野が236:213で制して、8月の新人戦から3カ月で早くも両目を開けた。

水野のコメント

今日はレーンが自分に合っ

ている気がして、自信を持って投げられた。とくに準決勝は父(成祐・24期)と隣同士でいい刺激を与え合いながら投げることができた。一緒に決勝に残りたかったけど... (成祐は次点の7位)。それにしても新人戦で優勝してから、こんなに早くレギュラーツアーで勝るとは、びっくりです。

優勝ボール: ハンマー スーパーオブセッション

女子

準決勝では1Gごとに激しい順位の変動があったが、終わってみれば千葉オープン、APAと連勝中の姫路が定位置のトップシードを獲得、サウスポーの桑藤美樹が2位に続き、小久保実希、堀内綾、坂本かや、中島瑞葵までが決勝シュートアウトに進んだ。

ストライク合戦となったシュートアウト2ndマッチを、1フレからの7連発などで267を打った桑藤が勝ち上がった。

優勝決定戦は、ともにダブルでスタート。「相手は麗さんなので、先に切れたらだめだと思っていた」桑藤だが、「しっかり投げすぎた」3フレは④⑦⑩のスプリットでつまずいた。さらに5フレは⑦⑩スプリット、6フレはヘッドを外して5本力



▶コロナ禍で2020年と2021年が統合されたシーズンで破竹の6勝目の姫路

ウントの連続オープン。

姫路は「練習ボールで右と左で違うボールを選択したのが正解だった」と、フォーススタートのあとも、7フレから2つ目のフォースと盤石の展開。7フレからフィフスで意地を見せた桑藤を256:207と寄せ付けず、昨年に続く連覇を飾った。

姫路のコメント

桑藤さんはシュートアウトでも267を打っていて、勢いが怖かった。ジャパンオープンの前からコントロールの改良に取り組んできたのが、千葉からの3連勝につながったと思う。これで杉本勝子さんに並べて、次

は中山律子さんの33勝が目標だけど、まさか中山さんを目指すなんて想像もできなかった。優勝ボール: エボナイト リアライズ アンギュラーワン、pro-am マジョリティ・ブラック

男子決勝ステップラダー

山本 勲	213	優勝
斉藤 祐哉	220	
水野 耕佑	254	236
小原 照之	222	
工藤 貴志	207	227
川添 奨太	188	

男子優勝決定戦

山本 勲									
9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
20	50	80	109	129	148	168	188	205	213
水野 耕佑									
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
30	60	90	119	139	158	178	198	217	236

女子決勝ステップラダー

姫路 麗	256	優勝
桑藤 美樹	267	
小久保実希	236	207
堀内 綾	227	
坂本 かや	193	235
中島 瑞葵	228	

女子優勝決定戦

姫路 麗									
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
30	60	89	109	128	148	178	208	236	256
桑藤 美樹									
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
27	45	53	72	81	90	120	150	180	207



第50回全国都道府県対抗ボウリング選手権 11月20~23日 / 足利スターレーン

熊本県が初の団体総合優勝

国体のリハーサル大会でもある内閣総理大臣杯・文部科学大臣杯「第50回全国都道府県対抗ボウリング選手権大会」が、11月20日から4日間、栃木・足利スターレーンで行われた。

2人チーム戦(6G)は、2459を打った千葉A(向谷・吉野)が広島A(石本・山本)を6ピン抑えて優勝した。4人チーム戦(6G)は、最終G696と落とした三重A(谷原・瀬戸・入江・高木)を群馬A(近藤・清水・渡辺・宮澤)が52ピン逆転する489

6で優勝をさらった。

選手権者決定戦には、チーム戦の個人得点上位男女各20名が進出、決勝6Gの18Gトータルで争われた。

男子は2666の1位で決定戦に進出の福満亮選手(長崎)と、18ピン差の2位につける藤永北斗選手(熊本)の優勝争いとなったが、藤永選手が1347を打って、福満選手を24ピン逆転する3995で選手権者に輝いた。3位には3767で原口優馬選手(長崎)が入り、九州勢の

健闘が目引いた。

女子は2369の1位で進出した石本美来選手(広島)が、決勝

を1131とまとめてトータル3500で初の選手権者に輝いた。決勝はスコアメイクに苦しむ選手が多いなか、1189を打った谷原美来選手(三重)が3455で2位に入り、2位で進出の近藤真桜選手(群馬)は谷原選手から18ピン差の3位だった。



▶初の団体総合優勝で内閣総理大臣杯を獲得した熊本県



▶選手権者に輝いた男子の藤永選手と女子の石本選手